

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391600109		
法人名	株式会社ほほえみ		
事業所名	グループホーム向が丘		
所在地	名古屋市天白区向が丘4丁目1002番地		
自己評価作成日	令和 3年 1月21日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNo=2391600109-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 3年 1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームでは入居者様のレベル・視点に立って出来る事を大切にしている。日常生活動作はなるべくご本人にして頂くことは基本として、散歩や買い物、暖かい日にはウッドデッキで日に当たったりすることで、利用者様の『笑顔』を生み出せるように取り組んでいる。またフロア理念の『いつも一緒笑顔あふれる我が家』を達成するために、四季に合わせて家族を巻き込みレクリエーションを実施している。冬は鍋をつつき、春はピクニックに出かけ、夏はそうめん・花火を楽しむ、秋には利用者様・ご家族様全員で一泊旅行に出かけたりと利用者様・ご家族・地域・スタッフの4者の力を合わせ、まるで大家族を目指して支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根付いたグループホームを目指し、認知症カフェや地域活動を行い、地域住民との良好な関わりを持っている。それが地域住民の認知症の理解へと繋がっており、認知症になっても住みやすい地域を創る一端を担っている。
職員育成では年間計画を立てた研修を行い、ホーム全体で深く学ぶ機会を確保している。職員同士がお互いを信頼し合い、上司・部下がともに支え合って利用者との関わりを持っている。
ホームで、出来る事を明確にし、自らのサービスを振り返り、改善を繰り返してきた歴史があり、何よりも、理念に沿ったサービス提供に熱心に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・施設理念を『あなたと、ともに』と定め、利用者が、その人らしく暮らし続ける為に『利用者様』『家族』『地域の方々』『施設の職員』がチームとなって理念を共有し、日々意識してケアを行っている。 ・理念に対し運営方針として具体的行動目標を立て、施設全体で実践している。	理念をもとに、行動目標を掲げている。新人職員にも理念の共有・理解を深めるための取り組みがあり、利用者が一人では成し遂げられなかったことが実現できるように考えながら、ホーム全体で目標を立てて支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ禍の影響もありましたができる限りの散歩や日光浴を通して、地域の方と顔なじみになり、挨拶をし合う関係を築いている。 ・施設内の「寄り合い茶屋ひらばり」(喫茶店)で地域の方に気軽に出入りして頂き、地域の方と利用者様の交流が生まれている。また、地域の方がフロアボランティアに入ってくださり、一緒にご飯やフロア掃除をいただいている。	施設内の喫茶店での交流やフロアボランティア等との交流の機会を活用し、地域住民とともにホームづくりを行っている。地域に開かれた運営を実践しており、利用者や近隣住民の交流を大切にしている。近隣住民もホームの生活に参加してもらえるように関わって行こうとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・施設内にある「寄り合い茶屋ひらばり」(喫茶店)にて地域の方に向けて、認知症の相談窓口を行っている。また、認知症カフェとして「認知症の理解や支援」について伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に1回、運営推進会議にて事業所の活動報告を行っている。その中で参加していただいている(ご家族様・地域の方・福祉関係者など)方から、事業所の運営や今後の活動について意見を頂いている。そしてその意見を実施し、サービスの向上をはかっている。	コロナ禍ではあるが、実際に会って話をした方が伝わりやすいということで、感染症対策を行い、運営推進会議を続けている。民生委員からも情報を集めており、意見交換をしながら次の課題を決め、解決・改善に向け取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域運営推進会議への参加を区役所へ依頼している。2か月に1回参加して頂き、最近の情報を共有して頂き、協力関係を築いている。民生委員の方々からも2か月に1回貴重な意見を頂いている。	コロナ禍での情報共有のため、メールでのやり取りが増えている。認知症の理解が深い担当者であり、ホームの運営や感染症対策まで、幅広く意見交換ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・入社時研修にて「介護保険法指定基準における禁止の対象となっている行為」について学ぶ研修を設けている。 また介護技術を高める為に全体ミーティングを実施し、その中で「介護保険法指定基準における禁止の対象となっている行為」の勉強会を行っている。現場スタッフも拘束に関して、日々意識して介護を提供している。	フロアミーティング、社員ミーティング、看護ミーティング、リーダーミーティングを開催し、研修や事例検討を行っている。入社時の研修マニュアルを整備し、身体拘束に対しての考え方を深めている。スピーチロックに関しては言葉を言い換えて拘束にあたらないように心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・入社時研修において、「虐待防止」マニュアルを使用し、研修を行っている。 ・介護技術を高める年間計画を経て全体ミーティングを通して、「虐待防止」マニュアルを使用し、勉強会を行い、意識し現場に入ってもらおうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・全体ミーティングの勉強会にて実施しているため、職員も知識として身につけている。また当社において、成年後見制度を利用されている方もみえるため、ミーティングで話し合い、定期的に知識の向上をはかっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には契約書関係の読み合わせを行い、細部まで納得して頂き、不安なく利用ができるように2時間程ご家族様と話をします。また、現場スタッフにも共有し、家族の不安に関して100%答えられるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・カンファレンスを通じて、ご家族からの意見や要望の聞き取りを行っている。 ・ご家族様から気軽にどのようなことでも言ってもらえる関係づくりを日頃から努め、頂いた意見、不満、苦情について、ミーティングにて話し合い、ケアに反映している。また年3回以上家族会を開催し、ご家族の意向を聞けるよう配慮している。また、家族巻き込み型ケアが行えるようにスタッフからも施設の介護の在り方を伝えている。	家族の来所時、連絡時、請求時等に直接話す機会を作り、要望を聞くためのアンケートを取るなど、意見交換をする機会設けている。年に3、4回程、家族が集まって話し合いをし、意見や意向、提案をホームの運営に反映するといった取り組みも行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・面談の際には、職員から運営に関する意見を聞き、改善するように取り組んでいる。 ・ICT面では、THP+というツールを活用して、「課題抽出欄」を設け、誰でも課題について提案を持って解決できる仕組みを設けている。	正規社員は月に2回、非正規社員は月に1回の面談を実施し、意見を言いやすい環境を配慮している。特にハード面での意見は、現場の職員意見が吸い上げられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・個人面談を1か月に1回行い、本人と話し合いながら自己目標を上司と一緒に考え、設定している。その際前回の面談からの努力や実績を評価し、向上心が持てるようにしている。 ・面談実施者は、カウンセリング・コーチング等の研修を受け、面談技術向上のために、勉強をして面談を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・スタッフが自発的に研修を受講できるように「研修受講届」の用紙がある。また、受講内容などに対して会社が補助する仕組みになっている。 ・法人外での研修情報を事務所掲示板に掲示し、スタッフに参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている	コロナ禍もあり同業者との関わりを持つことは難しい時期が続きました。しかし、新規入居案件での電話相談などを通して各施設の感染対策の取り組み等を情報共有することはできた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居相談、見学、問い合わせ時から不安や希望、悩み等に耳を傾け、信頼関係を築く努力を行っている。些細な事も納得して頂けるよう、実際にお会いし、お話をする機会を設けている。また、入居の窓口相談をケアマネとし、専門的な回答ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・相談、問い合わせの段階から、家族の話や傾聴するよう努め、家族の様々なニーズ・要望を引出した上で関係づくりに配慮している。 ・生活状態やご本人の求めている事柄を理解し、不安の軽減に努めるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・話をした上で、その人にとって最も必要と考えられるサービスについて家族と共に考え、それに伴う情報の提供を心掛けている。 ・当施設以外のサービスが、ご本人様・ご家族様にとって、必要な場合は、その他のサービス利用が行えるように他業種と連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・フロアミーティング等で利用者様の「できること」「できないこと」を考察しつつ、入居者様を第一に考え、日々の生活の場面で入居者様とスタッフがとともに助け合いながら行うということを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・4大レクを通して、ご本人様とご家族様、ご本人様とスタッフ、ご家族様とスタッフが絆を深め、家族とともに支えあう関係を築いている。 ・月1回お便り(ほほえみだより)で状況の定期的な報告と、随時電話連絡を取ることで、本人を支える協力関係を構築している。 ・家族会を利用して、普段のフロアの様子やご本人様の様子をご家族様に見ていただくことで、視覚に訴え、意見を引き出しやすくしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの生活がいかに重要かを契約前に説明し、ご家族様・ご本人様からの聞き取りや自宅で使用していた物品を居室で使ってもらえるように持ってきて頂いている。 ・馴染みの習い事・特技・趣味などあれば、継続ができる環境を整え、生活の一環として取り入れている。 ・カンファレンスにて馴染みの人や場の聞き取りを行っている。	本人の生活歴を参考に、趣味の継続ができるように支援している。実際に行けなくても、YouTubeで懐かしい映像をみてもらったりの工夫もある。コロナ禍でも利用者や家族のかかわりを途絶えさせないために、感染予防のためのルールを作り、面会を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・フロアミーティングにて入居者様個人に焦点を合わせ、人間関係等をいかに響き合わせることができるか話し合う場を設け、改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用者の永眠等により利用契約が終了となったご家族様に施設の行事に参加して頂き、「思い出をしのぶ会」を開くことで、グリーフケアを行っている。 ・また契約終了後もご家族様が施設にみえた際には、温かく迎え入れるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりのケアの方針について、フロアミーティングで本当に利用者の望むケアなのか話し合い、スタッフ一丸となって考え、実際のケアに活かしている。 ・ご家族様に馴染みの習い事・特技・趣味などを聞き取り、継続ができる環境を整え、生活の一環として取り入れている。	入居時のアセスメントで得た情報を、ホーム内で共有している。定期的にモニタリングを実施し、家族から電話等で聞いた情報と合わせ、内容をミーティング等で共有している。利用者の意向がホームでの生活に反映できるように、支援方法の工夫を話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族様、入居者様との普段の会話の中で、馴染みの暮らし方を聞くことが出来るよう心掛けている。 ・カンファレンスにて馴染みの暮らし方、生活環境についてお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの生活の流れについてフロアミーティングで話し合い、情報の伝達と共有、話し合いを設けている。 ・一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態について毎日のフロア報告メールでの共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・カンファレンスを定期的または、必要時に行うことによりご本人様・ご家族様・医師・看護師・介護士・ケアマネ・管理者などが参加をして「あなたと、ともに」の理念に沿った入居者本位の介護計画を作成している。また、カンファレンス議事録を使用しフロアミーティング時に共有しチームとして取組み、毎日のモニタリングにて見直しを行っている。	介護計画の作成は、ホーム独自の仕組みの中で、入居者本位の計画作成に努めている。利用者一人ひとりの記録を基にカンファレンスを行い、定期的及び必要に応じて随時に、更新・見直しを行っている。	介護計画に利用者毎の個性を出すことが望ましい。ニーズや課題を明確し、具体的な目標設定が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の個別記録、介護記録③による日々のモニタリングを基にして、スタッフ・ケアマネと情報共有を行い、ケアプランの変更・見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人や家族の要望に応じて、通院介助を行っている。家族の時間も許す限り一緒に過ごしていただけるように、食事の提供なども行っている。また、家族控室にてご家族様に泊まっていたいただき、一緒に過ごす時間を提供できる環境を整えている。どんなニーズに対しても「どうやったらできるか」を考えて対応するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・4大レクの中で地域の方々の参加をお願いし、地域の方に参加していただき利用者様と一緒に調理を行って頂いたりしている。また、地域の消防訓練にも参加し、地域との協力体制がとれるよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・事業所の協力医がかかりつけ医となり、細かな協力体制と往診の中で医療を受けられるよう支援している。また、そのかかりつけ医がパイプ役となり、必要な専門機関への受診も行っている。利用者様の小さな変化でもメールや電話で報告することで常にかかりつけ医は利用者様の状態を把握している。	ホーム協力医、看護師、薬剤師とホームがLINEグループを作っており、情報を共有している。その情報をITを活用して職員間でも共有し、医療と介護が連携して利用者の健康状態を把握している。家族には、ホームでの状況を正しく知ってもらうために、書面にして送っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪看の看護師に関して定期的に情報を送り、入居者様の変化に早期に対応が出来るような体制をとっている。特変時にはかかりつけ医・訪看と連携し、入居者様の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院の際には入居者様の情報を用紙にまとめ、提供している。また入院をした際には、Dr・ナースと連携をはかり、早期に退院が出来るように努めている。その他窓口の確認・情報交換・今後の相談をフロア主任、ケアマネ、管理者が行い、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居者の状況に応じて、医師を交えながら、ご家族様と重度化に伴う支援の方針を話し合うようにしている。また、必要な場合、往診の日にご家族に来所して頂き、医師とご家族の話し合いを行っている。 ・重度化・終末期に対する対応指針を定め、対象の利用者に対して、ご家族様の意見も交えながら、早い段階からフロアミーティングで話し合いを設けている。その為スタッフ全員が想いを統一し支援を行っている。	入居時に、ホームの方針を利用者と家族に説明し、同意を得ている。看取りの指針もあり、急変時のマニュアルはフロアに掲示して周知徹底している。利用者が最後まで馴染みの関係の中で安心できるように、家族にも本人への面会や声掛けをしてもらうように働きかけている。看取り後の、職員のメンタルケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・フロアミーティング、全体ミーティング内で、急変時の対応について話し合いを設け、技術の向上に取り組んでいる。また地域の消防団の方を招いて、AEDの使用方法・心肺蘇生法のやり方を訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・災害時マニュアルに沿って緊急時には行動するようにしている。また、全体ミーティングで研修計画を立案し、介護に従事しているスタッフに意識してもらえるように、避難訓練を地域の方々を巻き込みながら行う機会を設けている。	ホームの避難訓練に、地域住民の参加を促し、日中、夜間を想定した訓練を実施している。車椅子の使い方を地域の人に伝える活動も行っている。災害時の通報手順、避難経路も決まっており、訓練には使用者参加で有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に、個人情報の利用に関する同意書に承諾を頂いている。また、スタッフは、入社時、個人情報とプライバシーの重要性を説明し、誓約書に承諾をしている。 ・ミーティングで介護に従事しているスタッフに意識してもらえるように、『プライバシーの保護』について学ぶ機会を設けている。 	<p>尊厳への配慮やスピーチロックの研修をはじめ、接遇研修も取り入れ、利用者尊重の取り組みにつなげている。特に排泄時や入浴時、同性介助を基本と考え、難しい場合の承諾の声掛け等に配慮している。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を行う時には、まず聞き取りを行い、本人の希望を踏まえた行事になるように心掛けている。また、スマイルプロジェクトを実施し、ご本人の馴染みの場所へ出かけたり、食べたいもの行きたいところへお連れしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族様への聞き取りにおいて、ご本人のこれまでの生活パターンの把握を行い、メンバーへ共有し、毎日観察を行い、フロアミーティングの共有に努める。基本的な1日の流れはあるが、その人の思いや、状態に配慮しながら、柔軟に対応している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が安心できる洋服を毎日着て頂いている。また訪問美容師とご本人様とで直接パーマやカラーの相談を行い、本人の望む理美容を行っている。 ・衣服などについても、本人の馴染みのものを用いて、その人らしさを大切にしている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・献立決め、買い出し、食事作り、の一連の行為を入居者様とともに行えるよう支援している。調理を通し、作る、食べる、食べてもらう楽しみななどの環境を整えている。 また、実際に調理に参加ができない入居者様には「味見など」何らかの形で調理に参加をしてもらい、入居者様に合わせた支援を行っている。 	<p>必要な栄養素の摂取、塩分摂取量等にも配慮し、食事から健康を維持していく考えがある。利用者にはできる事を手伝ってもらい、役割を持って活動してもらっている。誕生日などの当別な日のメニューは、本人がリクエスト出来るなど、利用者本位の支援を提供している。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・水分摂取量、食事摂取量を記録している。 また、1日30品目を摂取できるような献立を心掛けている。水分については一日を通し1,000～1,500mlは摂取できるように支援している。 ・メニューも偏らないようにバランスを意識しながら、毎日献立をたてている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きの大切さを入居者様へ説明し、毎食後の歯磨きが習慣になるように支援している。また、入居者の状況に合わせ、見守りや一部介助、全介助、液体ハミガキ、ハミングッド等の活用などの支援を使い分け、確実に口腔ケアが出来るように支援している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄記録表を用い、尿意の曖昧な方にも気持ちの良い排泄ができるように支援している。 ・フロアミーティングにて、その人その人にあった支援が出来るようにスタッフで話し合っている。また、入院されオムツ対応であった利用者様をなるべくリハパンに戻せるように支援している。	利用者それぞれのタイミングに合わせ、声掛け・誘導等を行っている。排泄時の座位・立位の保持に不安がある利用者にも適切に対応し、本人に合わせた手順を組み立て、トイレでの排泄を基本に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・散歩や家事など、日中の活動量を増やすことによって便秘の解消につなげている。また、ヨーグルトを朝食メニューに取り入れたり、水分や牛乳を摂取することで便秘の軽減をはかっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・毎日入浴がしたい時間帯などの聞き取りを行い、出来るだけ希望にそった日時、時間帯に入浴が出来るように支援している。また、男性スタッフと男性入居者様が一緒にお風呂に入ることで入居者様がとても楽しまれている。	週2回の入浴を支援している。季節感を感じて入浴が楽しめるように、ゆず湯等の季節風呂を工夫している。また、同性介助に配慮したり、入浴拒否が見られる利用者には日を改めて入浴を勧める等、プライバシーと本人尊重にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・利用開始前に自宅での明るさなどの聞き取り調査を行っている。入眠時にはダウンライトを使用し、安眠ができるような環境を整えている。また、入居者が寝付けない時には、テーブルでお話をしたりホットミルクをお出しするなど、気持ちに配慮した支援に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の説明書を個人ファイルに保管し、必要時には手軽に確認しやすいよう配慮している。また、フロアミーティングにて説明書の読み合わせを行い、薬の用途、副作用、用法について理解を深めている。往診時等に薬が変更した場合は毎日の報告メールにて記載・共有し、知識・技術の向上に役立っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日中の支援の中で快の感情が少しでも増える支援を行っている。ご本人様のなごみを大切に、散歩が日課だった利用者様には散歩に行ったり、犬を飼っていた利用者様には施設の犬のお世話など生活歴の力を生かした支援を行っている。本人の楽しみが生まれる方法をスタッフと模索している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・可能な限り買い物や散歩を日常的に行っている。散歩では地域のボランティアさんも一緒に出掛けスタッフの人出が足りないことを補っている。また、生活レク・夢レクを実施し、ご本人の馴染みの場所へご家族様も一緒に出かけたり、食べたいもの行きたいところへお連れられている。	コロナ禍の外出自粛で、以前のような活動が難しくなっている。デッキでの外気浴等、今できる事に着目し、利用者の気晴らしと気分転換を工夫している。コロナ終息後は旅行を再開したいなど、利用者の生活の豊かさを広げようと意欲的に取り組んでいる。コロナ終息が待たれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個々に財布を持っている。管理の難しい方には、事務所にて管理を行っている。支払は、自分でできるように環境を整えている。また、施設の中でも、お金を使える環境があり、希望に応じて支払いを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・フロアには電話があり本人が掛けたり、ご家族様から掛かってきた際には、ゆっくりと家族との会話を楽しまれています。またご家族様に手紙を書きたいと言われる方には対応させて頂いています。ご家族様からも定期的に手紙が送られてきています。今年も年賀状はスタッフのフォローのもと、記載はできた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フロアの中心に台所があり、入居者様が使いやすい工夫をしている。また、なじみの量を取り入れたり、掘りごたつにすることで床での生活を続けられるようにしている。 玄関、フロアには、季節感を取り入れたディスプレイを行っている。食事も季節を感じられる野菜を使用し、調理する前に持っていたりし体感していただいている。	ホーム内は、利用者が季節を感じられるように、飾り付けに配慮している。畳と掘りごたつが、利用者のくつろぎの空間を演出している感がある。利用者は思い思いにくつろぎ、居心地の良さがうかがえる。採光、室温、清潔保持等、高齢者の生活空間として何ら問題は感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・各居室はもちろん、寄り合い茶屋、家族控室など自由に使える空間が保たれており、個々に居心地のいい空間で過ごすことができるようになっている。フロアの隅の日当たりの良い場所にはテーブルを一つ置き気の合う利用者様とお茶を楽しまれたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者様の馴染みの家具や布団などを持ってきてもらえるように、入居の際にご家族に協力依頼をしている。 馴染みの物が居室にあることで、入居者様も落ち着いて居室で過ごすことが出来ている。また、思い出BOXが設けてあり、ご本人様の想いの品を入れて頂いている。	居室には本人の趣味の物や家具を持ち込んでもらい、以前の生活が継続できるように配慮している。各居室の前には「思い出ボックス」という、利用者の大切なものを入れる場所の確保がある。利用者が「住み続けたい」空間づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者様のなじみの環境(障子・和式のトイレ・吊り下げ式の電球・まわすタイプの蛇口・たたみ・柱のある居間)を設置することで入居者の出来るを大切にしている。また入居者様のなじみの空間になり、安心して安全な生活を送ることが出来ている。		